

2025年度 授業コード: 22105700

授業科目	障害者心理学				実務家教員担当科目	-					
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	水貝 洵子										
授業概要	本講義では、身体障害として、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由を、精神障害として知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、ADHD を取り上げ、それぞれの障害特性や当事者の心理について、ライフサイクルの視点を踏まえながら学習する。また、障害特性を踏まえたうえで、彼らが抱える問題や困難に対する心理的援助についてや家族の障害受容に関する過程とその支援について学習する。										
授業形態	対面授業			授業方法							
<b>学生が達成すべき行動目標</b>											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学際的及び医学・福祉学・教育学的立場からの障害の定義について説明することができる。</li> <li>2. 授業で扱った障害について、障害特性を説明することができる。</li> <li>3. 授業で扱った障害当事者の心理について、その障害特性やライフサイクルの視点を踏まえたうえで、説明することができる。</li> <li>4. 障害特性や当事者の心理に応じた心理支援として、どのような支援が行われているのか説明することができる。</li> <li>5. 障害受容の諸説について説明することができる。</li> </ol>										
理想的レベル	標準的なレベルに加え、実習などの実践場面を想定ながら、障害支援における支援者としての基本的な姿勢について考えることができる。										
<b>評価方法・評価割合</b>											
	評価方法		評価割合（数値）			備考					
	試験		70								
	小テスト										
	レポート		25								
	発表（口頭、プレゼンテーション）										
	レポート外の提出物										
	その他		5			授業への参加姿勢					
<b>カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング</b>											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21410J
<b>学習課題（予習・復習）</b>										1回の目安時間（時間）	
該当箇所の復習										4	
<b>授業計画</b>											
第1回	テーマ：オリエンテーション 本講義のオリエンテーションを行う。また、国際生活機能分類などを取り上げながら障害の捉え方について解説する。										
第2回	テーマ：視覚障害児・者の理解と心理的援助 視覚障害の定義を解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。										

第3回	<p>テーマ：聴覚障害児・者の理解と心理的援助</p> <p>聴覚障害の定義を解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。</p>
第4回	<p>テーマ：肢体不自由児・者の理解1</p> <p>肢体不自由の定義、脳性まひの定義及び分類、随伴症状を解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。</p>
第5回	<p>テーマ：肢体不自由児・者の理解2</p> <p>二分脊椎および筋ジストロフィーを取り上げ、それぞれの障害の定義及び分類、随伴症状を解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。</p>
第6回	<p>テーマ：肢体不自由児・者への支援</p> <p>肢体不自由児・者へのリハビリテーションの概要について、ライフサイクルの視点を踏まえながら、解説する。</p>
第7回	<p>テーマ：知的障害児・者の理解</p> <p>知的障害の概念に関する歴史的変遷、定義と分類について解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。</p>
第8回	<p>テーマ：知的障害児・者への心理支援</p> <p>発達アセスメントや行動アセスメントの概要について解説し、アセスメント結果に応じた発達支援や心理支援について解説する。</p>
第9回	<p>テーマ：自閉症スペクトラム障害児・者の理解：</p> <p>自閉症スペクトラム障害の概念に関する歴史的変遷、定義と分類について解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助の概要について学習する。</p>
第10回	<p>テーマ：自閉症スペクトラム障害児・者への心理支援</p> <p>自閉症スペクトラム障害児・者への心理支援のひとつとして TEACCH を取り上げ、その理念や支援内容について解説する。TEACCH に含まれる構造化の技法についても取り上げ、どのように活用されているかについて紹介する。</p>
第11回	<p>テーマ：ADHD の理解と心理的援助</p> <p>ADHD の定義及び分類、随伴症状を解説したのち、当事者の心理特性やそれに応じた発達援助、心理的援助について学習する。</p>
第12回	<p>テーマ：学習障害の理解と心理的援助</p> <p>学習障害の定義及び分類、当事者の心理特性を解説したのち、特性に応じた教育的援助や心理的援助について学習する。</p>
第13回	<p>テーマ：病弱児・者の理解と心理的援助</p> <p>病弱の定義、病気の概要、当事者の心理特性を解説したのち、病弱児・者に対する心理的援助について解説する。</p>
第14回	<p>テーマ：障害受容について</p>

	保護者の障害受容に関する諸理論の紹介や事例の提示を行い、保護者の障害受容の心理的過程についてや保護者を対象とした心理支援について学習する。
第15回	テーマ：まとめ これまでの学習内容の振り返りを行う。
テキスト	指定なし。毎回レジユメを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス』 梶地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子（編） ナカニシヤ出版 『障害児・障害者心理学特論』 佐藤新治・田中新正・古賀精治著 （財）放送大学教育振興会 『発達障害と家族支援 家族にとっての障害とはなにか』 中田洋二著 学研 他、講義中に適宜提示する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問やコメントについては、適宜授業内で紹介し回答を示す。
学生へのメッセージ・コメント	心理学と心理的支援Ⅰ・Ⅱ、発達心理学Ⅰを履修していることが望ましい。 障害児者に関する文献、書籍を読んだり、積極的にボランティアなどに参加することが望ましい。